

広島市における地域主体の乗合タクシーの展開

広島経済大学 加藤博和

hr-kato@hue.ac.jp

はじめに

広島市内において、口田地区（安佐北区）で、2003年8月に町内会が地元のタクシー事業者に働きかけて、乗合タクシーの運行が自主的に開始された。高台に位置し高齢化が進む住宅団地と、最寄りの医療機関・商業施設や駅などを結び巡回するもので「やぐちおもしろタクシー」とネーミングされた。団地内に路線バスは通っていない。そうした郊外住宅団地等が多く存在する広島市にあって、地域が主体となった乗合タクシーの運行状況を概観する。

1. 広島市における地域主体の乗合タクシーの経緯と制度化

口田地区では地元の医療機関などに乗合タクシーのスポンサーになってもらい、停留所の案内スペースに広告を掲載したり、協賛金を集めたりして、地域が運行を支援する形でスタートした。公的補助はなく、運行に伴って生じる赤字部分について、口田地区では運行事業者がその大半を負担していた。山本地区はそれゆえ運行事業者が撤退を決め2013年2月に路線廃止された。

中野・中野東地区の乗合タクシーは、国の地域公共交通確保維持改善事業の補助要件に該当し、2013年度から補助金を得ることになった。広島市も2014年度に国の補助対象外の系統に1/2を補助する制度を創設した。そして2015年度から、収支不足額の3/4から国庫補助を引いた額を補助する現在のスキームになった。また、広島市は地域主体による生活交通の導入のため、1年間の実験運行で利用状況や課題を把握することとしその赤字分は市が全額負担している。

これまで広島市内で運行されてきた乗合タクシーが表1・図1のものである（山倉地区が実験運行中である）。おおむね系統は10km前後の定時定路線型で、運賃は大人片道300円、週2～5日（平日）の運行となっている。戸坂地区ではデマンド型が導入されている。

表1 広島市内で運行されている/運行された乗合タクシーの一覧

	地区	運行事業者	運行開始	実験運行	本格運行	備考
①	口田 (安佐北区)	(有)やぐちタクシー	2003年 8月	2004年 11月		
②	山本 (安佐南区)	祇園交通(株)	1995年 2月	2006年 1月		路線廃止 (2013年2月)
③	黄金山 (南区)	(有)カープタクシー		2009年 10月	2010年 10月	運行休止 (2023年4月)
		つるみ第一交通 (有)		2024年 10月		デマンド型 実験運行終了 (2025年3月)

④	中野・中野東 (安芸区)	(有)中野タクシー		2011年 11月	2012年 11月	
⑤	美鈴が丘 (佐伯区)	(株)エフ・ジー		2015年 10月	2016年 10月	
⑥	大塚西 (安佐南区)	(株)フォーブル		2016年 10月	2017年 10月	
⑦	可部・亀山 (安佐北区)	(有)カオル交通		2017年 5月	2018年 5月	
⑧	福田 (東区)	つばめ交通(株)		2022年 4月	2023年 4月	
⑨	戸坂 (東区)	はと第一交通(株)		2023年 12月	2024年 12月	デマンド型
⑩	山倉 (安佐北区)	広島交通(株)		2025年 11月		

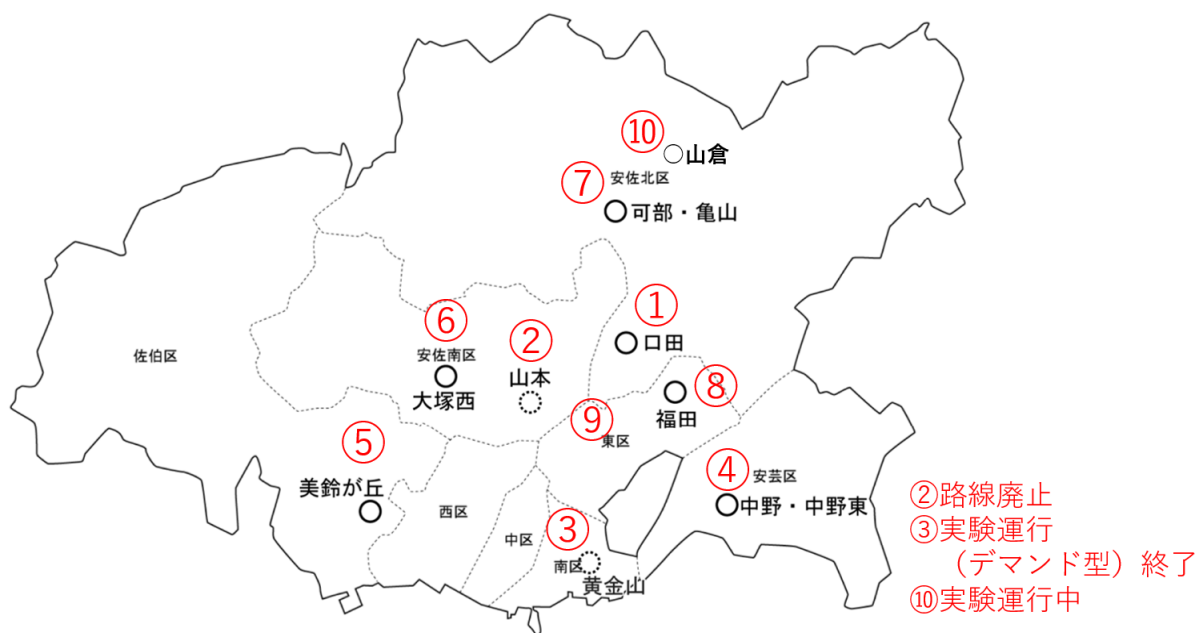


図1 広島市における地域主体の乗合タクシーの運行地区

おわりに

運行を継続するためには欠損額の4分の1は地元で賄う必要がある。黄金山地区の乗合タクシーはコロナ禍や燃料費の値上がりで、地元の赤字負担額が膨らみ、2023年4月から運行休止となった。2024年10月にデマンド型での実験運行が開始されたが、半年間で終了した。

口田地区でも運行開始から20年以上経過する中で、キーパーソンの高齢化など地域の人材面での持続性も課題といえる。一般乗用タクシーの乗務員不足も、乗合タクシーの存続に影響する可能性がある。